
淡い陽射し

tears

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

淡い陽射し

【Nコード】

N4018Y

【作者名】

tears

【あらすじ】

人気アイドルグループのリーダー藤堂 蒼哉はとある事情で転校を余儀なくされてしまう…。そこで出会う人々と触れ合い…。成長していく蒼哉…。そして愛おしい人との出会いは彼にどのような影響を及ぼすのだろうか？

王道大好きな腐女子…もちろん腐男子の方もどんと来い！

あーどうも…一応自己紹介なるものを…藤堂トウドウ 蒼哉ソウヤ…僭越ながらアイドルグループのリーダーというものをやっています…という訳で(どういう訳?)ボサボサのかつ…もといいウィッグとモノを着け、これまたぎゅう…強いて言うなら実に個性的な眼鏡をかけさせています。

「…でけえ、無駄に」

なんで驚いているかと言うと季節外れの転校生とベタな展開で…とにかく言おう…校門でか！税金の無駄遣い…。

「声に出てますよ…と言うかここは私立です…個人などが運営管理をする学校ですので税金は使われていませんよ？」

校門を見上げていると前方から線の細い美人さんが俺を見ながらクスクスと笑っていた。

「馬鹿で悪かったな！」

「そこまで言ってますんよ…私は九条クシヨウ 司ツカサです…僭越ですがこの副会長を務めています…よろしく願いしますね？」

にこにこの笑顔で手を差し伸べられるが俺はそれを振り払う。

「あのね？そんな作ったような笑顔するなら他の人呼んでよ」

一応アイドルですよ？作り笑いのひとつたつくらいは簡単に見破れますって。

「面白い…転校初日でこの俺をここまで楽しませるとは…気に入ったぜ！」

あれ？いきなり俺様口調？

「むぐッ…」

いきなりのキス！？…と知っているとかちゃくちゃと音をたてる九条…。

「むぐつてなんだよ…」

「うるさいよ、九条先輩…」

俺は真っ赤にして怒鳴るが九条は聞いているのか聞いてないのか分からないが楽しそうに笑ってやがる

「蒼哉…特別に俺のことを名前で呼ばせてやる」

ちょっ…何様！？

「お言葉に甘えさせて変態と呼ばせて頂きます」

…口調はムカつくがせっかくの好意を無駄にすることは出来ない…。

「……なら俺もその期待に答えましょう」

嫌味を言ったはずなのに九条先輩が笑ってるのは気のせいか？

「……分かりました、謹んでふたりの時くらいは司って呼ばせて頂きます」

身の危険を感じた俺はすぐさま訂正…なんだか俺…軽くあしらわれてないか？

「…俺も蒼哉と呼ぶぜ、分からないことがあれば何でも聞けよ」

「……さっそく尋ねているのに疑問符が無いのはなぜですか？」

「確認作業だからだ」

なるほど…分かります、俺の意見は無視なんですね？

「案内してやるからさっさと行くぞ？」

俺は何故か手を引かれながら馬鹿でかい校舎へと足を踏み入れた。

.....。

……視線が痛いのはどうかの変態が俺の手を離さないせいだろう。

「……どうしたんですか？蒼哉くん……体調でも悪いんですか？担いで行きますか？」

「冗談じゃない……大体知っててこういうこと言うか？普通！？」

キイと睨むと若干顔を崩し笑う司……おかげで……。

「なにあのオタク……九条副会長に微笑まれて……生意気よ」

この……なら今すぐ女口調やめて俺と立場変われ！。

「ホントだよね……ボサボサ眼鏡くせに……九条様が穢れる」

この人は元々穢れてますよ？

「……穢されるのは蒼哉ほうだけどな？」

「何か言った？」

なんか悪寒が走ったのだが…。

「気のせいです…理事長室に行きますよ」

なんだかはぐらかされている気がしたが理事長と聞いて俺は気を引き締めた…。

.....。

ただいま理事長室前…。

「…さて魔境にたどり着きましたよ…さ、司先輩？俺のために魔境の扉をお開けください」

「は？頭でも…ぐはあ！？」

魔境の扉を開けるといきなり司先輩が突き飛ばされる…危なかった。

「ソウたん、ソウたん、今日も…あれ？………誰コイツ？」

尊い犠牲は忘れない…。

…てか、抱きついた相手が俺じゃないと分かった途端態度を急変させたぞ？一応愛すべき教え子だろ。

「私めが愛してるのはソウたんのみです」

「堂々と言っな…しかもお手製のはっぴとか持参するなキモイ！…
…と忘れかけたが俺の心を勝手に読むな」

俺は落ち着いて司先輩の上にいる理事長目掛けて回し蹴りを放つ…
うつとり顔で俺の蹴りを受ける理事長…威力が弱かったか？

司先輩はこめかみに青筋を走らせながら俺を睨む。

「こうなることを読んでたろ？」

「はい、助かりました」

「（コイツ…オタクみたいのに艶っぽい）」

「（チツ…ソウたんの色気の前ではたとえオタクルックでさえ鬼の副会長も一日で骨抜きか…特にソウたんのクラスは曲者揃い…生徒会ほどではなはいえ気を配っていて損は無いな…）」

俺がペコリと頭を下げると真っ赤になって怒る司先輩……あれ？理事長も心なしか機嫌悪い？

「ちょっとソウさんと話がありますので司くんは先にここまで結構です」

「分かりました」

俺が首を傾げると話が…待て！こいつとふたりっきり！？

まずいぞ…何されるか…。

「……なにか考えてるようだけど…もう司くん行ったからね?」

人が怯えているというのにさっさと帰ったのかあの腹黒…。

「さあ……さっさと理事長室に入ろうか?」

俺は無理矢理腰に手を回され理事長室に引きずりこまれた。

「……………毎度のことだがお前のすることは俺の理解の範囲を超えてる気がするんだが」

「そう?。」

なんでウィッグを外して俺を膝の上に乗せて…何が楽しいんだが…理事長室に入るなりこんな感じで…呆れるよ…マジで。

「そうそう…ココのことだけど…」

俺の青い髪を弄りながらいう理事長…………鬱陶しい。

「…………藤堂学園は男子校にして全寮制…ってのは知っているよね?。」

名前を聞いて感づいてかも知れないがこの学園は俺の叔父が理事長
…で色々諸事情で転校を余儀なくされた…。

「……うん」

「……そう…ココのバ…生徒達というかほとんどが人が同性が恋愛
対象…つまり綺麗な子とか可愛い子とかが襲われたり食われたり…
コおラ俺には関係ないって顔するな!!」

俺が途中から興味ない顔してたら思いつ切り頬を捻られる…。

「痛い!痛い!」

叔父さんはあ…とため息を吐いたあと。

「あまり油断してると………」ついついことになるよ?。」

叔父さんは俺のズボン脱がす…俺は慌てて叔父さんの腕を掴むが俺の自身を揉まれてしまう。

「あッ…やッ…」

「イキ顔も綺麗だね?。」

元気になったソレをしごく手が先走りがたらたらと流れ叔父さんの手を汚していく…俺は叔父さんの顔を熱っぽく見る…叔父さんのいつもの大人っぽいカッコイイ顔が野獣のような表情になっている…。

「……あぐッ…もう…」

「イって?そしてエロい顔を俺に見せて?。」

尿道を親指で擦られ俺は淫らな声で鳴く…。

俺は肩で息をしながら叔父さんを睨む…けどうつとりとした顔で俺の太股を撫でるだけで反省してる様子が無い。

「……………ということがあるからソウたんも気をつけてね？」

ね？…………じゃあねーというかこんなことするのはコイツだけだって…。

イライラし出した俺はくせか貧乏ゆすりをしてしまう。

「えっと…部屋に案内するけど…」

「さっさとしろ！今すぐに！…！」

不機嫌な俺にビクビクする叔父さん……なんとなく色々気を使っているのは分かるがそれはそれでこれはこれ……自業自得だね。

……………。

疲れた！ー叔父さんの部下の人があらかじめ荷物を運んでくれたから良いものを……片付けだけでも結構大変……布団とか重いし！ウィッグを付け忘れたら軽く三十分くらい説教されたし！！

ぐったりとリビングのソファで寝てるとガチャとドアが開く……誰だ？

「…………誰だ？俺の部屋で勝手にくつろいで……」

……黒い髪のイケメン……ってこの学園は美形率高いな……まるでドラマみたい……。

「これからお世話になる藤堂 蒼哉です……よろしくね？」

イケメンさんは無表情で俺を睨む……俺なんかした？

「鬘取れてる……」

名前も名乗らないのかよ、俺は名乗ったのに……ってカツラあ！？

俺は慌てて頭に手を伸ばす……慌てたせいか頭から鬘が落ちる……。

「……………」

「……………」

「……………単純……………」

は？

「な、なんだよ……だましたのか？」

黒髪の麗人はほっぺをかいて気まずそうな顔する……。

「……まさか、こんなに簡単に引っ掛かるとは思わなかったからな……
………というかお前……The tear of 7 colors
のリーダーのソウだろ？」

The tear of 7 colors

文字通り七人組みのチーム…やめたわけではないが色々と事情があってこの学園に転校した…チームメイトは戸惑っていたがおおむね納得してくれた……で条件が『ソウだということバレないこと…』

まさか一日でバレるとは…みんなにどう言い訳しよう…。

「黙ってほしいか？」

なんかムカついたというか…はつきり言って八つ当たり…なんだけど。

「……………その前に名前を教えろ！何様のつもりだ！！」

……と素っ気無く言ってしまった、怒ってみんなにバラすと言った
どうするつもりだったんだろ…俺…。

「瀬戸^{セト} 煌夜^{コウヤ}だ…何様と言うと生徒会長様…あの腹黒の副会長に気
に入られるだけあって面白い…」

あの？…司先輩のことか？しかも気に入られたって…。

しかしココの生徒会ってアク強いな…。

「…黙っていてほしい？」

「……………ん」

「なら、ちょっと来い…」

俺の手を力強く瀬戸会長…。

どこに連れてくつもりだろ？

「…………俺の部屋だ…適当に座れ」

どこにと思ったら瀬戸会長の部屋…俺は近くにあった椅子を引き寄せて座る。

…ってココには小さいけど部屋にひとつ冷蔵庫があるのか？

「今はこれしかないから我慢しろ」

俺は瀬戸会長から缶コーヒーを渡される。

「…良いですよ…瀬戸会長」

ふう〜とため息をついて机の椅子に脚を組んで座る瀬戸会長。

俺はどんな無理難題を出されえるか身構える…その様子を見て瀬戸会長が危険な笑みを浮かべたのを知らなかった。

「…黙秘の条件はふたつ…週に二回…生徒会に顔を出すこと…俺の事を瀬戸会長と呼ばない…あと俺はお前のことソウと呼ぶからな」

三つだし…でも簡単だし良いか？てつきり無理難題を出されると覚悟してたから拍子抜け…。

「週二回って曜日は？あとならなんて呼んでいい？」

「それは勝手にしろ…どうせ部屋は一緒だし…」

ならなんて言った…。

「コウで良いか？」

「悪くない…でこっちに来い」

コウは手招きをした…俺がコウ先輩に近づくといきなり手を引き寄せられベットに押し倒される…。

「な、なに？」

「アイドルだけあって良いのは顔だけではないみたいだな？」

T・シャツを捲り上げ乳首を舐めるコウ…思わず喘ぐ俺に口の端を吊るし上げるコウは執拗に乳首を攻める……一度叔父さんに抜かれた息子もすっかり勃上がつている…。

「ふッ…んッ…あッ…イク…」

俺のズボンに手を入れ自身を揉んで乳首を攻めるコウ…。

「ソーウーご飯まだ!？」

叔父さんの呼ぶ声がリビングから聞こえる…。

「…………ひゃ!？」

「…………残念だったね?また…」

俺の自身の根元を掴んで寸止めしてきた…………止められて苦しそうな俺を見てクスと笑うコウ…。

俺はベットのうえでぱっと部屋を出て行ったコウの後ろ姿を眺めた…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4018y/>

淡い陽射し

2011年11月16日12時16分発行